

日 時：2026 年〔令和 8 年〕7 月 7 日～8 日

参 加 者：岡村眞由美・岡村繁雄 他 2 名

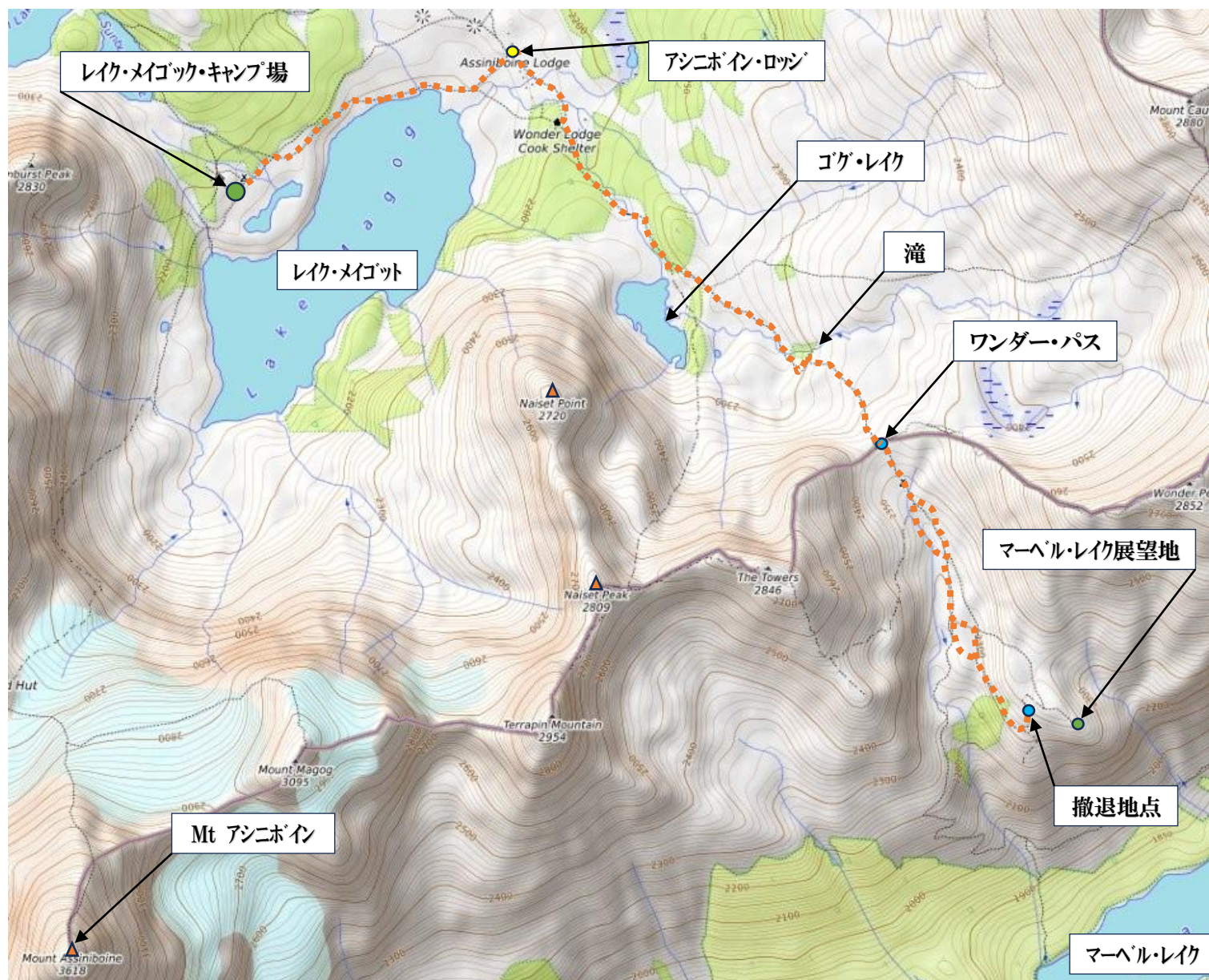
行 程：7 日 レイク・メイゴック・キャンプ場 → アシニボイン・ロッジ → ゴク・レイク → ワンダー・パス
→ マーベル・レイク展望地手前付近 → ワンダー・パス → ゴク・レイク → アシニボイン・ロッジ
→ レイク・メイゴック・キャンプ場

8 日 レイク・メイゴック・キャンプ場 → アシニボイン・ヘリパッド〔ヘリコプター〕⇒ マウント・シャーク駐車場
⇒ キャンモア〔車〕

7 日 行動時間：6 時間 20 分

今日も快晴無風の素晴らしい天候に恵まれ、キャンプ場を午前 7 時に出発した。

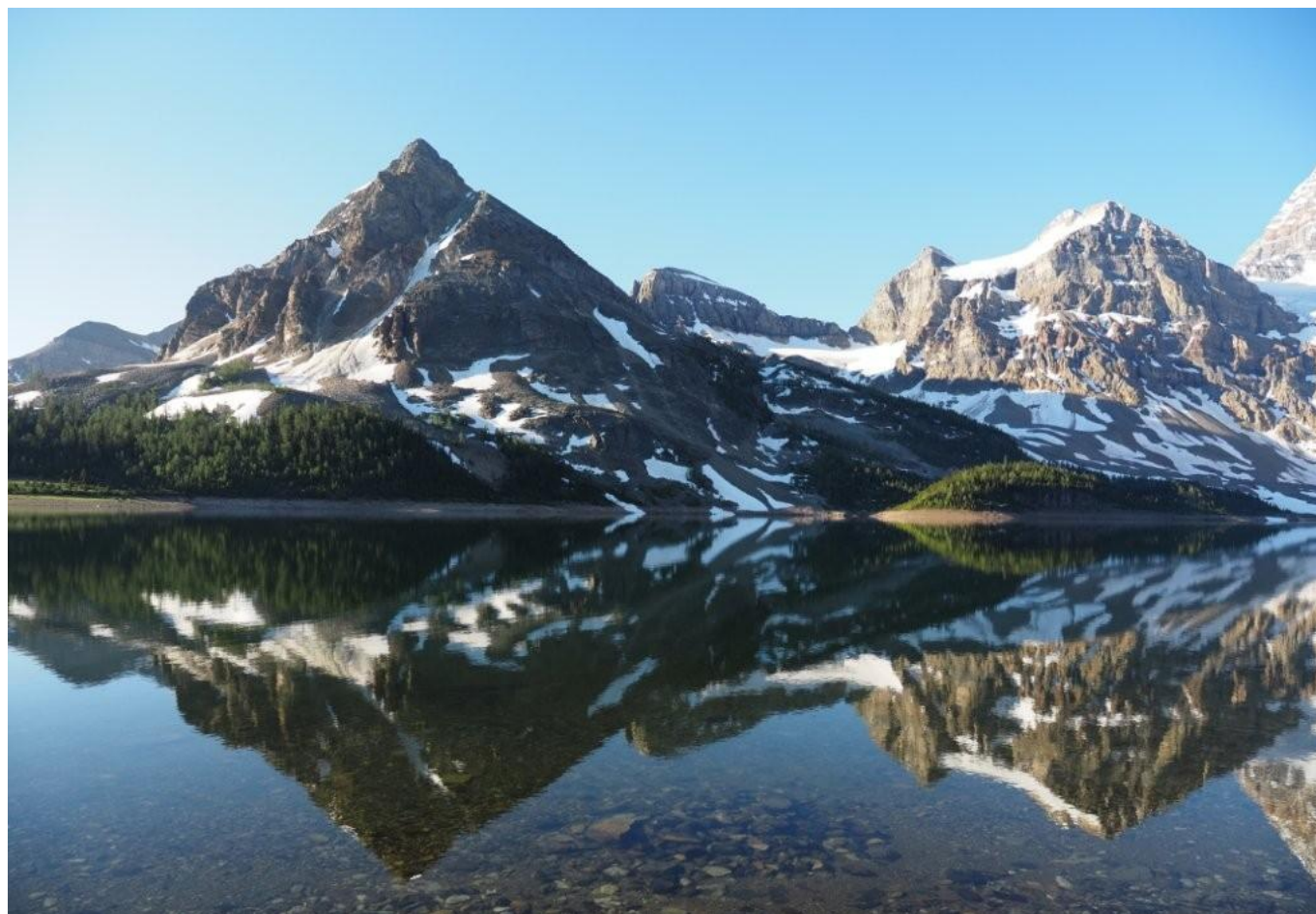
朝の清々しい空気の中、レイク・メイゴックの湖面にはアシニボインの姿が鮮やかに映し出されている。昨日に
続いて、逆さアシニボインの美しい光景を眺めながら歩き始めた。



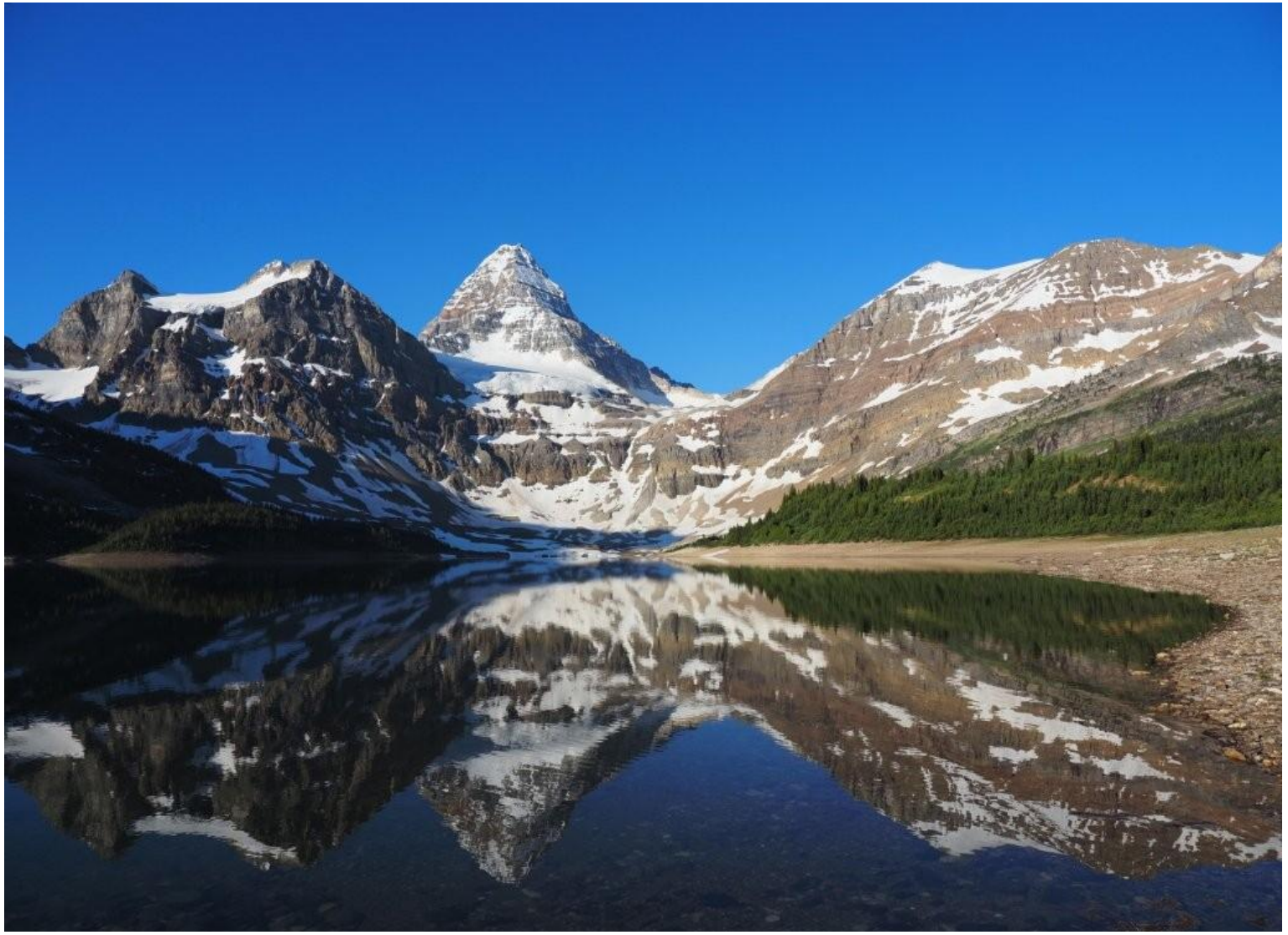
OpenTopoMap org より〔.....今回のコース〕



レイク・メイゴッグ・キャンプ場より 朝日に輝くアシニボイン〔望遠〕



レイク・メイゴッグ〔アシニボインの左手の風景〕



昨日に続いて 今日もレイク・メイゴッグ湖畔の素晴らしい景色





アシニボイン・ロッジ



小川に架かる橋

アシニボイン・ロッジの前を通り、ロッジに隣接するナイセツ小屋を抜けて進む。途中には色とりどりの花々が咲き乱れ、右前方にはザ・タワーズやネセツ・ポイントを望むことができた。朝の斜光線を受けて輝くウェスタン・アネモネも美しく、何度も足を止めて写真を撮った。

昨日、ナブレット周辺で出会ったホーリー・マーモットとは異なり、アシニボイン・ロッジ周辺で見かけた動物は、当初、マーモットの別の種類だと思っていた。しかし、後日調べてみたところ、マーモットではなく、コロンビアジリス(*Urocitellus columbianus*)であることが分かった。



コロンビアジリス (*Urocitellus columbianus*) 〔望遠〕



アシニボイン・ロッジに隣接するナイセツ小屋



右前方 ザ・タワーズとネセツ・ポイントを望みながら進む



朝の斜光線に輝く ウェスタン アネモネ (Western Anemone)



リュウキンカ属 マウンテン マーシュ マリゴールド(Mountain Marsh Marigold) 湿地帯の一面に広がる大群落



ゴグ・レイク湖畔より ザ・タワーズ



ワンダー・パスへの登り

ゴグ・レイクに近づくと、湖の向こうにザ・タワーズが姿を現した。静かな湖面と周囲の山々が織りなす景色は素晴らしく、歩くたびに新しい風景が目に飛び込んでくる。

ゴグ・レイクを過ぎると、次第に登りが急になっていく。途中から残雪が目立つようになり、滝を通過したところには、トレースは残っているものの、登山道はほとんど雪に覆われていた。

ワンダー・パスへの登りでは日差しが強くなり、サングラスをキャンプ場に置いてきたことを後悔した。雪面からの照り返しも強く、思った以上に目が疲れる。残雪を踏みしめながら登り続け、ようやくワンダー・パスに到着した。



途中の滝



前方 ワンダー・パス



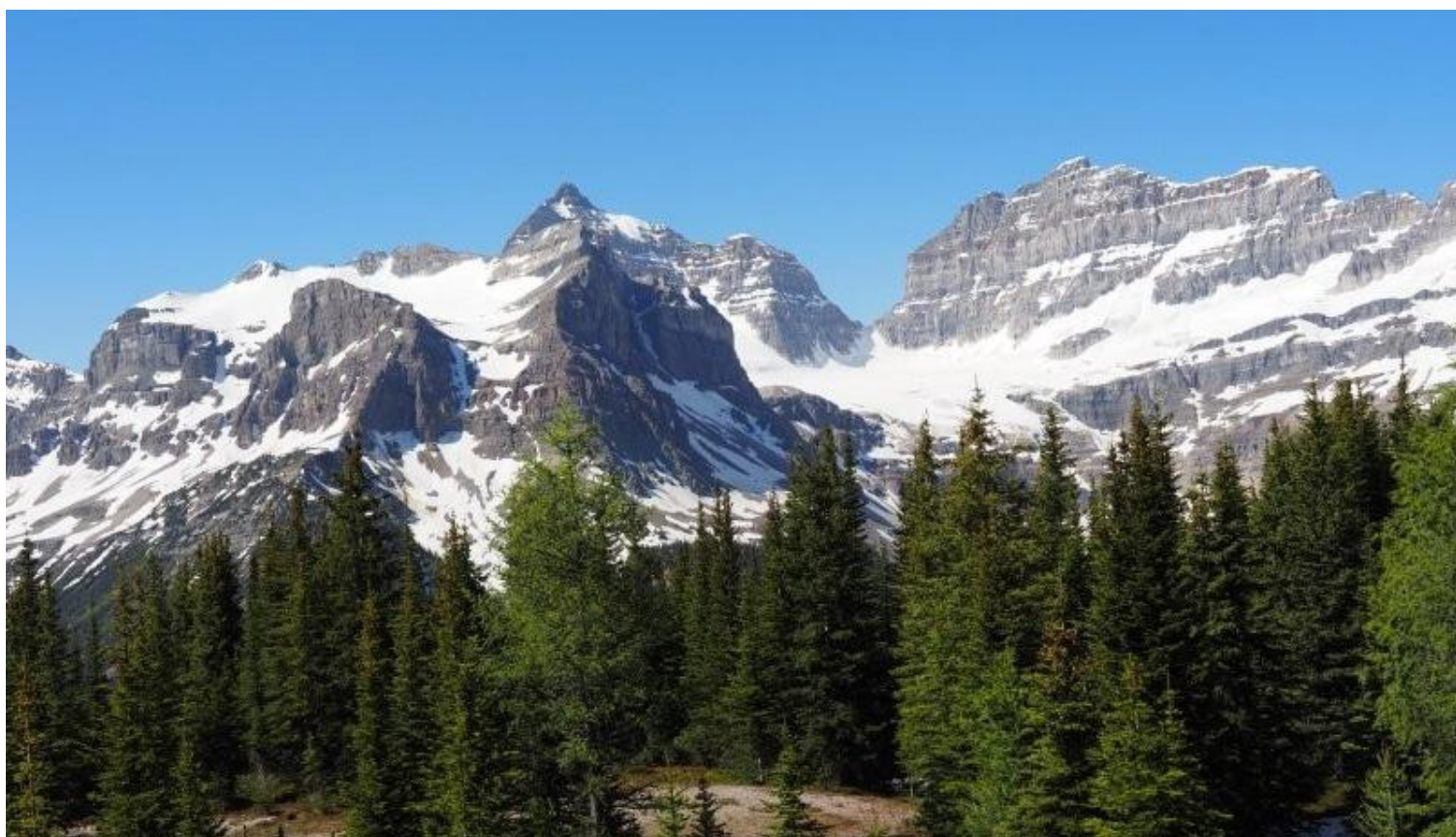
ワンダー・パスからの下降

ワンダー・パスからは、谷沿いに残されたトレースを追いながら下降した。鞍部に差しかかり、小さな池が現れたところで、事前に周辺の地図をダウンロードしておいた Apple Watch で現在地とルートを確認する。

すると、どうやら進む方向を誤っていたことに気づいた。目的地であるマーベル・レイク展望地方面へのルートは左上にあることが分かり、方向を修正して先へ進んだ。



ワンダー・パスを トレースを追って谷沿いに下降 鞍部の池



アシニボインの東壁をやっと確認



アシニボインの東壁〔望遠〕

マーベル・レイクへの分岐付近まで来ると、ところどころ雪が解け、登山道が姿を現していた。

しかし、展望地へ向かう登山道は、日当たりの悪い場所ではまだ雪が深く覆われており、トレースもほとんど残っていなかった。やむを得ず、何か所か雪を踏み固めて足場を作りながら、一歩ずつ慎重に進んだ。

その頃には、連日の山歩きによる疲れもあり、そろそろ引き返そうかと思い始めていた。

分岐から 40 分ほど行くと右手にアシニボインの東壁が見えてきた。

ここまで来ると、苦勞して歩いてきた甲斐があったと感じる。しばらく東壁を眺めた後、マーベル・レイク展望地を目指してさらに進んだ。

すると突然、目の前に斜面いっぱい広がる黄色い花の群落が見えた。

一面を埋め尽くしていたのは、カタクリ属のグレイシャーリリーだった。雪解け直後の斜面を鮮やかな黄色に染めるその光景は、これまでの苦勞を忘れさせてくれるほど美しかった。



斜面一杯に広がる黄色いカタクリ

「ここまで来て本当によかった」と思いながら、花々を写真に収め、さらに斜面を少し登った。
アシニボインの東壁も間近に望むことができたため、この先のマーベル・レイク展望地まで進むことも考えた。
しかし、無理をして進むのは危険と判断し、マーベル・レイクとレイク・グロリアを一望できるという展望地は、今回は断念して引き返すことにした。
目的地には届かなかったものの、ワンダー・パスを越え、残雪の道を進んだ先で、アシニボインの東壁と斜面
いっぱい咲くグレイシャーリリーを見ることができた。十分に満足できる山歩きとなった。
帰路は来た道を戻り、ゴグ・レイク、アシニボイン・ロッジを経てレイク・メイゴッグ・キャンプ場へ戻った。





カタクリ属 グレイシャーリリー (Glacier Lily)



8日 アシニボイン ヘリパッドの待合風景



アシニボインをバックに飛び立つヘリコプター



ヘリコプターよりスプレー・レイクス貯水池を望む

7月8日は朝から曇り空となり、6日、7日のような青空を背景にした素晴らしいアシニボインを見ることはできなかった。

わずか一日の天候の違いで、同じ山がこれほどまでに違って見えるのかと、改めて天候の大切さを実感した。

この日は、アシニボイン・ヘリパッドからヘリコプターに搭乗し、マウント・シャーク駐車場へ戻る予定である。

帰りのフライトも順調に進んだ。行きのフライトでは、ヘリコプター内でどの位置から、どのように写真を撮ればよいのか分からなかったが、今回は座席の位置や、下部の小窓が開いてそこから撮影できることも分かっている。

そのため、帰りのフライトでは小窓から眼下に広がる景色を撮影することができた。ヘリコプターから、スプレー・レイクス貯水池など、地上からは見ることでできない景色が次々と現れ、最後までアシニボインの山旅を楽しむことができた。

今回のアシニボイン入山は、入山前からさまざまなハプニングがあったが、それらを乗り越えてようやくこの地に立つことができた。そして6日、7日には快晴に恵まれ、アシニボインを間近に望む素晴らしい景観を存分に楽しむことができた。

最後はヘリコプターからの雄大な景色を眺めながら山を後にした。振り返れば、まさに幸運に恵まれた、忘れることのできないアシニボインの山旅となった。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura